

学位論文審査の結果の要旨

頼 琨

本論文は、中国を代表する天然ゴム産地として雲南省・西双版纳地方を対象地としながら、主に以下に述べる 4 つの内容の研究を行なっている。1 つは、対象地のゴム栽培の 20 世紀初頭を嚆矢とする史的展開過程を、その担い手である国営農場と小生産農家の動向に焦点を当てながら、公刊資料や国営農場の内部資料を使いながら追っている。2 つは、無作為抽出した小生産農家 50 戸について 2012 年に聞き取り調査を実施し、そこで得たデータの解析を通じて、農家就業構造、作付構成、技術構造、ゴム栽培収益性、農家所得構造、生活水準を、農家階層別に明らかにしている。そこでは、農家はゴム栽培により繁栄しているように見える一方で、零細層ではゴム単作化の下で経済的脆弱性が増している状況が描かれている。3 つは、やはり無作為抽出した国営農場との契約栽培農家 50 戸について 14 年に聞き取り調査を実施し、09 年国営農場改革の成果と問題点を摘出している。改革は、国営農場における就業率上昇をもたらした一方で、農家による短期利益の追求行動を助長し、樹木の寿命短縮をもたらす収穫頻度の増加や、国営農場財政の悪化等の問題を引き起こしている。4 つに、対象地の状況を、従属学派の理論枠組みを使いながら評価し、高次加工部門との連関を欠く「非接合」状態が対象地を「周辺」の地位に追いやっており、今後はこういった産業部門の設立が必要であるとした。

重要な工業原料作物の主産地であるにも関わらず、雲南のゴム栽培を対象とした農業経済学の先行研究が存在しない中で、本論文が描き出した対象の歴史や構造に関する包括的・体系的な認識は、今後の研究の確固たる基礎になりうるものと評価できる。さらに、公表論文数の点から見ても、本論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと評価し、合格と判断した。

なお、調査対象地が中国国内であることを明示するために、英文学位論文名の末尾に China の一語を付記した。加えて、学位論文併記名も日本語としてより自然なものとするために推敲を重ねて変更した。